もっと暮らしやすい八千代市へ

いいかわひでき 議会報告

2026年3月議会

発行：2026年4月 八千代市議会「もっと暮らしやすい八千代市へ」
飯川英樹 八千代市大和田新田312-5 TEL.047-483-1151

無所属になりました！

八千代市議会議員
飯川英樹

プロフィール Profile

2026年4月時点

総務常任委員会
都市計画審議会委員
◆1970年船橋市生まれ
◆1歳で高津団地へ
◆八千代市立西高津小学校
◆八千代市立高津中学校
◆千葉英和高校
◆都内の専門学校で商業デザイン、広告、マーケティングなどを学ぶ
◆カー用品メーカーで商品開発や広告制作に携わる
◆八千代市内で情報処理会社を経営
◆2019年八千代市議会議員に（現在2期目）
◆2026年に会派を離脱、無所属に
◆家族：妻と3人の娘
◆趣味：食べること（2023年7月から休止中）、買い物、釣り、車、散歩、映画鑑賞など

ごあいさつ

私、飯川英樹は、今まで所属していた会派を2026年4月に離脱し、同時に無所属になりました。今後も引き続き市民のみなさまの意見をお聞きし、市政をとおして「もっと暮らしやすい八千代市へ」向けて頑張ってまいります。引き続き宜しくお願い申し上げます。

一般質問 市民会館周辺の公共施設が集中する地域へのアクセス性向上を

送迎バスが必要なのでは？

市民会館周辺は公共施設が集中している地域である一方で公共交通ではアクセスしづらい場所、また渋滞に関する声もあがっています

市民会館周辺は、市民体育館、総合運動公園、野球場、テニスコート、中央図書館、市民ギャラリー、そして総合グラウンドなど、公共施設が集中する地域でもあります。

この地域は、市が管理している部分だけで、年間利用者数約76万人、運営管理費用は約5億3千6百万円、この費用の他に改修工事の為に相当な費用が必要な上、これらの施設を整備するために、すでに相当の費用を投入しています。

一方で、この地域へアクセスする公共交通はほとんどなく、駐車場も不足している為に渋滞も発生しています。昨年の12月議会では、中央図書館に隣接する県立公園の駐車場代について、「公共交通が充実するまでは、1時間無料から2時間無料にするべき」と求めています。

3月議会では八千代市にたいして「市民に公共施設を利用してもらうために費用をかけて建物などを作り、費用をかけて維持管理をしているのであれば、市民を送り迎えしてでも施設を利用してもらうべき」と指摘。さらに「市民と公共施設の架け橋は市の責任で行うべき」と求めました。

しかし、市の回答は「既存の公共交通を利用することでアクセスできる」として「現在検討していない」という残念なものでした。

一般質問 都市計画道路の将来像について

いつ？本当に開通するの？？

八千代市の都市計画道路は、1963年に計画が決定されてから60年が経過。2025年3月末時点で、整備率は33路線で約62%、残り38%が未着手のままです。

※参照：八千代市ホームページ
都市計画道路整備プログラム▶

都市計画道路については、市民の多くが「いつ開通するのか？」「本当に開通するのか？」と思っているのではないでしょうか。また、予定地にお住いの方や土地を所有されていらっしゃる方は何十年にも渡って翻弄されているのではないでしょうか。

実際に地権者からは、「いざ計画が動き出して、該当する土地を買い取る話がでても、代替地はどうなるのか」「商売を継続するための金銭補償はどうなるのか」という声や「立ち退きを拒む方の気持ちがわかるような気がする」という声もあがっていることからも3月議会で確認しました。

飯川英樹議員

※参照：八千代市議会ホームページ「議会中継」へのリンク▶

市は、地権者への情報伝達について、「常に決定図書の縦覧が可能、ホームページ等に掲載されている」「事業認可の取得後は事業説明会の開催、戸別訪問の実施など、丁寧な説明に努めている」と回答。

さらに計画区域内は「法律で階数が2階以下で地下を有しない、主要構造部が木造や鉄骨造など容易に移転又は除却することができる建築物に限り建築が可能」と答えています。

しかし、最終的には人の気持ちの問題になり、場合によっては市長が何度も直接伺って寄り添わなくてはならない場面も発生するのではないかと指摘したうえで、地権者に寄り添った対応を要望。さらに、道路開通の為に、もっと柔軟に、より戦略的に進めるように要望。

一般質問　緑が丘地域の街づくりと学校について

八千代市は、緑が丘地域の中学校不足問題を解決するために「県立高校の活用」を優先案としています。

一般質問では、市にたいして「県の方針をそのまま受け入れるのではなく、これからの八千代市の未来を考えて、これから先の人口減少に向けて、八千代市は抗っていく必要がある」と指摘したうえで、「もっと暮らしやすい街づくりの為に、今いる子どもたちの為にも、緑が丘地域には、新しい中学校を設置し、地域の高等学校の存続に向けて、勇気をもって、舵を変えて頂きたい」と要望。

緑が丘西地区の一部は、都市計画の用途地域が変更され、大型物流施設などが建設されましたが道路は未完成のままです。

その結果、地域では交通問題が発生し、物流施設や商業施設としても不便なままであると実態を指摘。市は「未整備区間は今後、普通車等の通行を想定した暫定供用を予定」と回答。問題解決に向けて動き出しました。

▲緑が丘西のフェンスで囲まれた道路予定地

一般質問　高津団地をもっと魅力的に

高津団地の中心部分にあったスーパーマーケットが2021年8月末に閉店してしまい、空き地になったままになっています。

地域からは高齢者だけではなく、子育て世帯からも「不便になった」という声が多く寄せられています。

議会では、他の団地のように「せめてコンビニだけでも」と何度も求めていますが、空き地の所有者がURでも市でもないことから、なかなか進展しません。

議会では、市にたいして「URと連携して地権者と交渉し、高津団地をもっと魅力的な街に」するように求めました。

高津団地に残されたままの空き地▶

議決結果　おもな議案と内容について

3月議会は、2月18日から開催され33議案のほか諮問、請願などの委員会審査を行い3月23日に議決。

2月18日に先議された議案15号の補正予算では、国からの物価高騰対応特別給付金の活用で市民1人あたり5千円の給付が決定（※1）

議案第1号は国の「こども誰でも通園制度」（※2）創設に伴うもので、現場の人材不足や負担増加による安全性への懸念があり、注視する必要があります。

議案12号は国の「子ども・子育て支援金制度」創設に伴う国民健康保険料の負担増で、来年度以降も負担増になる見込。（※3、※4、※参考）

参考リンク

八千代市議会＞議決結果（令和８年第１回定例会）▶
https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/52/77034.html

◀※1：八千代市＞物価高騰対策特別給付金について
https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/38/74381.html

※2：八千代市＞こども誰でも通園制度　リンク▶
https://www.city.yachiyo.lg.jp/site/kosodate/74198.html

◀※3：八千代市＞「子ども・子育て支援金制度」が始まります
https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/29/73329.html

※4：こども家庭庁＞子ども・子育て支援金制度について▶
https://www.cfa.go.jp/policies/kodomokosodateshienkinseido

予算審査　令和８年度予算審査特別委員会

一般会計約830億円、国保などの特別会計約360億円、上下水道局約127億円の予算について、4日間にわたって審査し指摘、要望しました。

主なものとして、年間約10億円、5年間で50億円超のコンピューター教育事業の費用対効果、国から赤字分の75％が補填される「ふるさと納税」のあり方、職員の残業時間対策、市が契約する再生可能エネルギー100％電力の効果、保育士支援金の公布実態、公園トイレの洋式化促進など…

※参考（こども家庭庁のホームページより）

令和８年度の支援金額の推計（平均月額）

健保組合	被保険者一人当たり 約550円
国民健康保険	一世帯当たり 約300円
後期高齢者医療制度	被保険者一人当たり 約200円

▲通称「独身税」と言われる「子ども・子育て支援金制度」の負担増には様々な意見や声が…